

前橋工科大学○学生員 橋本 康弘

前橋工科大学 正会員 湯沢 昭

1. はじめに

中心市街地の活性化のため、地域住民の参加できる身近な手段の一つとして、お祭りなどのイベント開催があげられる。各地で様々なイベントを取り入れた中心市街地の活性化が行われてきた。本研究は、前橋市で開催された複数のイベントを取り上げ、イベント参加者を対象とした中心市街地に関するアンケート調査を実施し、その調査結果に基づいて中心市街地の問題について考察する。

2. 調査の概要

前橋市内において行われた「七夕祭り（平成12年7月）」、および「前橋祭り（平成12年10月）」の各イベント時に中心市街地へ来訪したイベントの参加者を対象にアンケート調査を実施した（各イベント共、2,000通を手渡しし、後日郵送回収）。その結果、七夕祭りでは271、前橋祭りでは194の回答を得た。

本論文では、表-1に示すような「中心市街地来訪時の感想」と表-2の「中心市街地活性化の対策」に関する質問項目に着目し、前者には数量化理論第二類を、後者には5点評価法をそれぞれ適応し、イベント来訪者の中心市街地に対する評価や問題点などを把握し、中心市街地の活性化対策を考える上での基礎資料とすることを目的として分析・考察を行う。

3. 分析結果と考察

表-1に示した12項目について、各々「1.良かった」「2.普通」「3.悪かった」の3段階評価をしてもらい、その結果から各質問項目の満足度と重要度を算出した。満足度は、3段階評価の内「1.良かった」と回答した人の割合を、また重要度は「12.全体的な印象」を外的基準、各項目を説明変数とし、数量化理論第二類を適用した場合のレンジの値を採用した。

中心市街地活性化対策については、表-2に示したように、全部で18項目を提示し、重要と思われる順に上位から5項目を選択してもらった。第一位の項目には

表-1 中心市街地来訪時の感想

項目	
(1)街全体が清潔に感じた	(7)文化的な雰囲気を感じた
(2)街の緑が美しかった	(8)休憩施設
(3)街並みがきれいだった	(9)各商店の活気を感じた
(4)通りが分かりやすかった	(10)店員の対応が親切だった
(5)歩道が歩きやすかった	(11)店のサービスが良かった
(6)都会的な雰囲気を感じた	(12)全体的な印象

表-2 中心市街地活性化の対策

項目
「自然環境の整備」
①公園や緑地の整備などによるオープンスペースの確保と潤いの演出
②広瀬川や馬場川などの自然環境を活かしたまちづくり
③看板規制や植樹などによる統一的な街並み景観の形成
「交通施設の整備」
④中心市街地や商業施設のバリアフリー化による人に優しいまちづくりの推進
⑤中心部からの自動車交通の排除や歩行者の安全を目的としたコミュニティ道路の整備
⑥無料駐車場の設置や駐輪場などの来街者のためのサービス施設の確保
⑦休憩施設の整備や高齢者のための電動車いすの無料貸し出し施設の設置
⑧高齢者や交通弱者のための公共交通体系の整備
⑨パークアンドライドやシャトルバス運行などの移動交通手段の確保
「都市施設の整備」
⑩高齢者を対象とした良質な公営住宅の整備
⑪学校などの教育・文化施設の整備
⑫娯楽・スポーツなどのアミューズメント施設の整備
⑬中心となる大型店舗の誘致
「その他の対策」
⑭空き店舗の有効活用（チャレンジショップや街角ギャラリー）
⑮前橋まつりや夏祭りなどのイベント活動の強化
⑯宅配サービスなどによる新しい顧客の創出
⑰中心部再生に向けて活動する各種団体への支援
⑱特になし

5点、二位には4点、五位には1点というように重みを付加し、総合得点を算出した。

図-1は、表-1に示した11項目についての結果を示したものである（数量化理論第二類によるレンジ）。ここでは、全サンプルを用いて分析を行った。結果から、「12.全体的な印象」に最も影響を与えているのは、「6.都会的な雰囲気」、次いで「9.各商店の活気」が重要であることが分かる（的中率=64.0%、相関比=0.465）。

図-2は、満足度と重要度との関係を図示したものであり、市内と市外居住地別に整理した。いずれの地区とも全体的に各項目の満足度は低く、特に市内居住者の評価が低い値となっている。中でも「6.都会的な雰囲気」「7.文化的な雰囲気」「8.休憩施設」「9.各商店の活気」はいずれの地区においても低い評価となってい

番号	項目	-1.2	-1.0	-0.5	0.0	0.5	レンジ
(1)街全体が清潔に感じた	1			-0.2493			0.3461
	2				-0.0015		
	3				0.0076		
(2)街の緑が美しかった	1			-0.3095			0.5691
	2				0.1439		
	3				0.2089		
(3)街並みがきれいだった	1			-0.3703			0.4689
	2				0.0986		
	3				0.2590		
(4)通りが分かりやすかった	1			-0.1752			0.3921
	2				0.1809		
	3			-0.2112			
(5)歩道が歩きやすかった	1			-0.1035			0.1816
	2				0.0007		
	3				0.0742		
(6)都会的な雰囲気を感じた	1		-0.9920				1.2384
	2			-0.3728			
	3				0.2456		
(7)文化的な雰囲気を感じた	1			-0.0605			0.1625
	2			-0.0689			
	3				0.0821		
(8)疲れたとき休む場所があった	1			-0.1184			0.3994
	2			-0.0388			
	3				0.0826		
(9)各商店の活気を感じた	1		-0.8113				1.0220
	2				0.0725		
	3				0.1808		
(10)店員の対応が親切だった	1			-0.0565			0.2762
	2			-0.0330			
	3				0.2187		
(11)店のサービスが良かった	1				0.0553		0.1078
	2			-0.0077			
	3			-0.0528			

図-1 数量化理論第二類によるレンジ

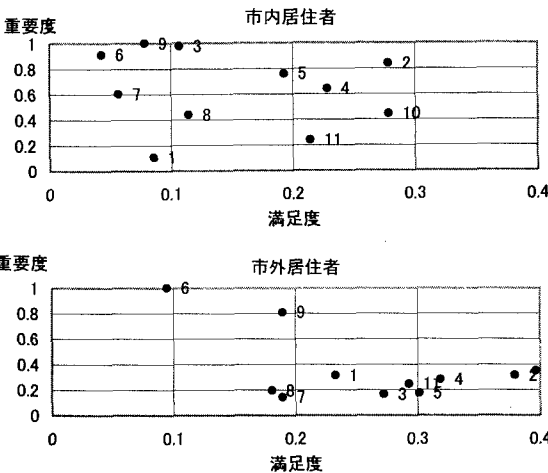


図-2 各項目に対する満足度と重要度

る。逆に比較的評価の高い項目としては、「2.街の緑」「10.店員の対応」などがあげられる。重要度の観点からは、市内が「9.各商店の活気」「3.町並みのきれいさ」「6.都会的な雰囲気」「2.街の緑」などがあげられている。市外では、「6.都会的な雰囲気」が最も重要度が高く、次いで「9.各商店の活気」となっており、その他の項目の重要度は相対的に低い値となっている。

以上の結果から、中心市街地の整備目標としては、満足度が低く、重要度の高い項目に着目する必要がある。

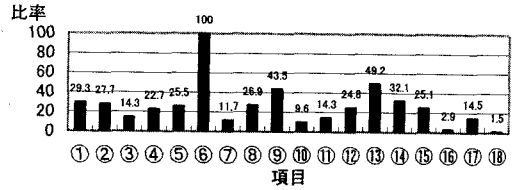


図-3 中心市街地活性化のための具体的対策

る。具体的な項目として、「6.都会的な雰囲気」「9.各商店の客気」が両居住者に共通した項目となっている。

図-3は、表-2に示した中心市街地の具体的な対策についての重要度を整理したものである（居住地による違いが認められなかったため、全サンプルを使用）。最も重要な対策として上げられているには「⑥無料駐車場の設置や駐輪場などの整備」であり、次いで「⑬大型店舗の誘致」「⑨P&BRやシャトルバスの運行」と続いている。

これらの結果から、中心市街地の活性化を図る上での対策としては、交通施設整備が最重要課題となっており、中でも車利用者を対象とした中心部での駐車場の整備やP&BRの実施が望まれていることが明らかとなった。また、図-2と図-3の結果を総合すると、前橋市の中心市街地活性化対策としては、中心市街地そのものの課題と、交通アクセスの課題とに分けることができ、市街地問題への対応としては、①都会的雰囲気の創出：現在の中心部は、清潔感の欠如、放置自転車の増加などがあげられる。したがって、歩行者を中心とした街並み整備が必要となる。②商店街の活気：これは空き店舗の増加による中心部の空洞化現象が大きな課題となっている。個々の空き店舗対策は勿論のこと、商店街全体としての対策が不可欠である。

交通アクセスの対策としては、③中心市街地での有料駐車場の低料金化：現在の有料駐車場の料金体系は、ほぼ同じような形態になっている。これを一定以上の駐車時間の定額制導入、駐車場の立地場所による料金の差別化などを図り、利用者にとって利用しやすい体系にする必要がある。④P&BRの実施：本研究においてもP&BR利用者と一般の有料駐車場利用者、さらには公共交通利用者間の滞在時間や中心市街地内での使用金額（食事や買い物など）に関する分析を行った。その結果、P&BRを含む無料駐車場利用者の滞在時間や使用金額が他の利用交通機関と比較して長い（多い）ことが明らかとなった。今後は、イベント開催時以外においてもP&BRやP&Rなどの実施が必要となる。